

ま風 金曜日

「グーグルを訴えよう」そんな無謀と思えることを考え、実行に移す日本人経営者がどれほどいるだろうか。2011年春、グーグルやヤフーといった巨大IT企業など13社を相手に、米国で特許侵害訴訟を起こした。1年後、グーグルなど12社と和解し、特許ライセンス契約を勝ち取った。

メールなどが届くと小さな通知画面が現れて知らせてくれる機能。インターネットで検索した内容に関連した広告が配信される仕組み。通信が中断しても確実にデータを送信する技術。いずれもイーパールの特許技術だ。訴訟の目的はただひとつ。「イーパールが持つ特許

きたの・じょうじ 1962年、岡山県生まれ。86年、早大理工建築卒。損害保険会社の契約社員となった。91年に保険ディーラーを起業。2000年、イーパールに入社した。04年、代表取締役社長に就任。東京・谷中の臨済宗寺院「全生庵」を舞台に、政財官界の幅広い著名人と交流する勉強会「谷中の政経塾」と座禅会「谷中で座る会」を主宰する。

北野 譲治 さん
イーパール社長



に

ほんご

NIHONGO

公私ともに「いつでも全力」

言葉のアルバム



版画・大野隆司

技術は、世界的なIT企業が採用する『世界標準』であると証明すること。グーグルと闘った男はそう語る。イーパールの創業者に強く請われ、00年の日本人設立時から参画した。だが、営業先で「技術はいけど、うちが欲しいのは『世界標準』の技術なんだよ」と何度も体よく断られる経験をした。

明日の夢におぼれるな。今日一日を全力で生き抜くために励み努めよ。若い頃に出会った人生の師、四元義隆氏(故人)から、そう贈られた。四元氏は、中曾根康弘元首相ら歴代首相の「指南役」とも言われた人物。政治や経営を目指す若者に「自分を捨て去れ」と薫陶し続けた。四元氏の影響で始めた座禅は、今も定期的に続け、「無私」を磨いている。

の企業活動を支えている。まだまだ高い目標がある。「米国のように巨大なベンチャー企業が育つ社会へと日本を変革したい」自社の特許技術がその助けになればと願う。毎年、仕事以外の目標にも挑戦している。18年は「神道を学び、奈良仏教に触れる」がテーマだった。休暇も利用し、伊勢など全国の神社を正式参拝し、飛鳥から白鳳・天平時代までの社寺を巡った。今年「伝統仏教宗派の本山を訪ね歩く」だ。

「おとっちゃん」は「怖がるよくな人」ということだ。この「おとっちゃん」は子供に対して使うことが多く、奮起を促す応援の気持ちで込められていると言っている。同じ「臆病者」に対する言葉でも、相手を見下すような「ビビリ」「チキン野郎」とは大違いの表現なのである。



画 成田輝昭

かしこ 手紙書き上げた瞬間の喜び

小学生の頃、親戚にお年玉をもらうのがうれしくもあり、憂鬱でもあった。「拝啓」から始まり「かしこ」で終わる、ていねいな礼状を書く。それが我が家の約束事だったからだ。簡単な挨拶だけではなく、学校の近況なども記すので、一通につき、原稿用紙2、3枚分となる。下書きを母に見せて、オッケーが出ると清書に入るのだ。文章を書くのは当時から得意だったので、下書きはまだいいのだが、清書がわたしの「敵」だった。集中力が途切れて、漢字を間違える。1字ならごまかせるけれど、2か所も3か所もあると汚いので全文書き直しせざるを得ない。

もったいない 語辞典

だから最後に「かしこ」と締めくくる瞬間が、ひたすら待ち遠しかった。その文字に到達すると、「やったー」と快哉を叫んでしまうほどに。時代は変わった。今、わたしが小学生なら、メールで許されていたはずだ。「拝啓」も「かしこ」も必要ない。字を間違えたら、カチカチとキーボードを操作して、書き直せばいい。楽ちゃん、楽ちゃん。ただ、その場合、完成した瞬間のあの喜びも味わえないわけだ。それはちょっとさびしい。



手紙ありがとっ、と親戚はみんな返信や電話をくれた。大変な憂鬱だと言いなながら、結局、楽しい思い出になっている。(作家)

*『にほんご』は毎週金曜日掲載。次回(25日)は黒井千次さんの「日をめくる音」(毎月最終金曜日掲載)の予定です。